

2018年(平成30年)12月5日(水)

沖縄初 ファインパイル工法Civ.で地盤改良

土とセメント均一に混合

P. E. Cが県内の施工担当

基礎工事や地盤改良工事などを専門とする(株)P. E. C(嘉陽宗勅社長)は名護市の現場で、県内初となる

「ファインパイル工法Civ.」による地盤改良工事を行っている。

今回の現場は、名護市津井出で施工されている県外企業の保養所施設(元請・(株)IMT CORPORATION ON、池原紀夫社長)の地盤改良工事として、地盤中に柱状の改良体を形成し、地盤補強を図っている。

同工法は、土とセメントスラリーを混合攪拌(かくはん)し、地盤中に柱状の改良体を形成して地盤補強を図る深層混合処理工法の一種。従来工法は、柱状の改良体を形成する際、粘着力のある土とセメントスラリーが混ざりにくく、改良体の品質がばらつきやすい傾向にあった。

従来工法の課題を克服しようと開発された「ファインパイル工法Civ.」は、土とセメントスラリーに分散剤のKNNスラリー20を添加することで、土粒子とセメント粒子の増粘を抑え、土とセメントスラリーが均一に混合され安定した品質を確保。KNNスラリー20は、食品添加物

にも指定されている成分を主成分としているため、安全性も高い。適用地盤はロームを含む粘性土や砂質土で、対象建造物が擁壁やマンション、店舗、倉庫など。

同工法を採用したIMT CORPORATIONの池田雅人常務は「ファインパイル工法は海辺などで建設する物件の地盤改良工事に適した工法だと思う。沖縄では海岸付近での建築も多いので、同工法の採用例が増えて、より導入しやすい価格になれば」と期待

を込めた。同工法は兼松サステック(本社・東京)の会員企業である(株)ユニオンが開都、高崎資社長)が

発。施工は、同社が運営する「グランタードユニオン」の会員企業による地盤改良工事を一手に引き受けている。兼松サステックのジョテック事業部技術部の平野聡氏は「今年からファインパイル工法Civ.による施工が始まっており、8月末

唯一の会員企業であるP. E. Cが、沖縄の現場で採用されている。安定した強度と均一に攪拌(かくはん)できることから、施工者からの評判も高い」と語った。

現時点で、全国で約30件の現場で採用されている。安定した強度と均一に攪拌(かくはん)できることから、施工者からの評判も高い」と語った。

現時点で、全国で約30件の現場で採用されている。安定した強度と均一に攪拌(かくはん)できることから、施工者からの評判も高い」と語った。



施工中の様子



平野氏の阿野(左)と兼松サステックの営業部長のP.E.C(右)の宗弘氏

現時点で、全国で約30件の現場で採用されている。安定した強度と均一に攪拌(かくはん)できることから、施工者からの評判も高い」と語った。

現時点で、全国で約30件の現場で採用されている。安定した強度と均一に攪拌(かくはん)できることから、施工者からの評判も高い」と語った。

現時点で、全国で約30件の現場で採用されている。安定した強度と均一に攪拌(かくはん)できることから、施工者からの評判も高い」と語った。

98(983)0031まで。